

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## 【資産、負債、純資産の状況】

(単位:億円)

	2010年度 (2011年3月31日)	2011年度 第3四半期 (2011年12月31日)	増 減	2010年度 第3四半期 (2010年12月31日)
流動資産	17,606	17,019	587	17,256
(現金及び預金並びに有価証券)	(3,646)	(3,270)	(376)	(3,376)
(受取手形及び売掛金)	(8,770)	(7,803)	(967)	(7,963)
(たな卸資産)	(3,414)	(3,947)	(532)	(4,067)
固定資産	12,634	12,155	479	12,685
(有形固定資産)	(6,386)	(6,301)	(84)	(6,376)
(無形固定資産)	(2,519)	(2,316)	(202)	(2,541)
(投資その他の資産)	(3,728)	(3,536)	(192)	(3,767)
資産合計	30,240	29,174	1,066	29,942
流動負債	15,078	14,777	300	14,594
(支払手形及び買掛金)	(6,042)	(5,587)	(454)	(5,562)
(短期借入金及び1年内社債)	(2,255)	(3,321)	(1,066)	(2,939)
(未払費用)	(3,231)	(2,841)	(390)	(2,795)
固定負債	5,625	5,339	285	6,067
(社債及び長期借入金)	(2,452)	(2,525)	(72)	(2,812)
(退職給付引当金)	(1,815)	(1,730)	(84)	(1,919)
(繰延税金負債)	(337)	(120)	(217)	(282)
負債合計	20,703	20,116	586	20,662
株主資本	9,039	8,847	191	8,845
その他の包括利益累計額	826	1,050	223	918
少数株主持分	1,324	1,259	65	1,351
純資産合計	9,537	9,057	480	9,279
負債純資産合計	30,240	29,174	1,066	29,942

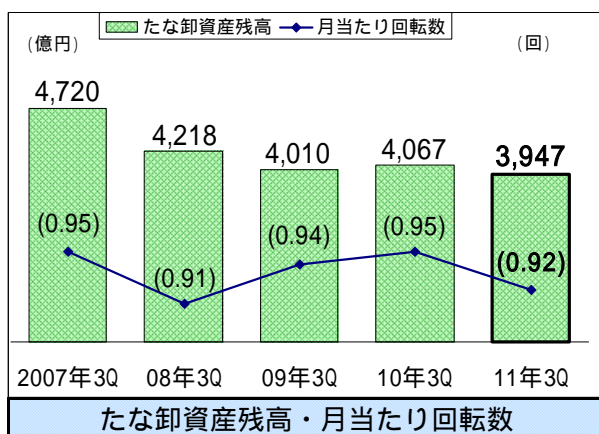
## 【キャッシュ・フローの状況】

(単位:億円)

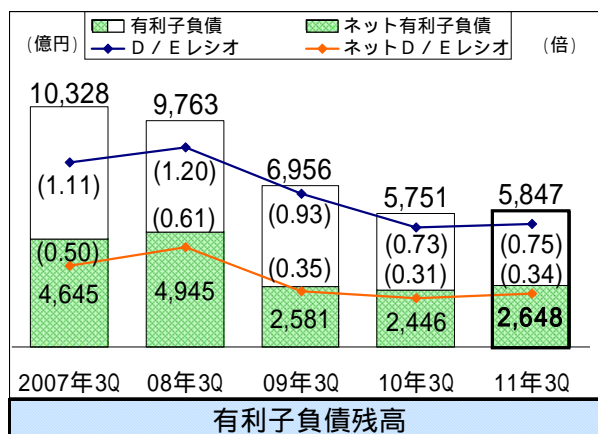
	2010年度 第3四半期累計 (2010年4月1日～ 2010年12月31日)	2011年度 第3四半期累計 (2011年4月1日～ 2011年12月31日)	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	710	252	457
(税金等調整前四半期純利益)	(577)	(86)	(663)
(減価償却費及びのれん償却額)	(1,646)	(1,529)	(116)
(売上債権の増減額(は増加))	(896)	(660)	(236)
(たな卸資産の増減額(は増加))	(927)	(628)	(299)
(仕入債務の増減額(は減少))	(389)	(241)	(148)
投資活動によるキャッシュ・フロー	933	1,328	394
(有形固定資産の取得による支出)	(902)	(967)	(64)
(投資有価証券の売却による収入)	(339)	(47)	(292)
+フリー・キャッシュ・フロー	223	1,075	852
特殊要因を除く	611	1,123	512
財務活動によるキャッシュ・フロー	530	758	1,289
(借入金の純増減額(は減少))	(1,034)	(1,619)	(584)
(社債の発行及び償還)	(998)	(427)	(571)
(配当金の支払額)	(231)	(226)	(5)
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,305	3,199	106

(注)特殊要因を除くフリー・キャッシュ・フローは、投資有価証券の売却による収入、連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入及び事業譲渡による収入を除いたものであります。

資産、負債、純資産の状況



(注) 月当たり回転数は、第3四半期累計の売上高÷期中平均たな卸資産残高÷9により算出してあります。なお、期中平均たな卸資産残高は第1四半期末、第2四半期末及び第3四半期末のたな卸資産残高の平均残高を使用しております。



当第3四半期末の総資産残高は2兆9,174億円と、前連結会計年度(以下、前年度)末から1,066億円減少しました。円高の進行により約900億円減少しました。流動資産は1兆7,019億円と前年度末に集中した売上に係る売掛金などを回収したことなどにより前年度末から587億円減少しました。たな卸資産は3,947億円と今後の売上に対応するため、サービスビジネスや携帯電話を中心に前年度末から532億円増加しましたが、前年同期比では119億円の減少です。資産効率を示す月当たり回転数は0.92回と、前年同期末比0.03回悪化しました。震災影響などにより当第3四半期(累計)の売上水準が前年同期に比べて低かったほか、今後の売上に対応するため、たな卸資産を増加させていることなどによります。固定資産は1兆2,155億円と、前年度末から479億円減少しました。有形固定資産及び無形固定資産は、欧州子会社を中心に円高による為替影響があったほか、当第3四半期(累計)での新規取得が減価償却の範囲内に収まったことにより減少しました。

負債残高は2兆116億円と、円高の進行に加えて前年度末に集中した売上に対応する買掛金や未払費用の支払いがあったことなどにより前年度末から586億円減少しました。有利子負債残高は5,847億円と、前年度末から1,139億円増加しました。転換社債1,000億円の満期償還に対し500億円の普通社債を発行したほか、運転資金の一部を短期借入金で調達したことなどによります。これによりD/Eレシオは0.75倍と前年度末より0.18ポイント悪化し、ネットD/Eレシオは0.34倍と前年度末より0.2ポイント悪化しました。前年同期末とはほぼ同じ水準です。

純資産は9,057億円と、前年度末から480億円減少しました。その他の包括利益累計額が円高の進行などにより223億円減少したことなどによります。自己資本比率は26.7%と、自己資本の減少により前年度末から0.5ポイント悪化しました。

(単位:億円)

	2010年度 (2011年3月31日)	2011年度第3四半期 (2011年12月31日)	増 減	2010年度第3四半期 (2010年12月31日)
現金及び現金同等物の期末残高	3,585	3,199	386	3,305
有利子負債の期末残高	4,708	5,847	1,139	5,751
ネット有利子負債の期末残高	1,122	2,648	1,525	2,446
自己資本	8,212	7,797	415	7,927
D/Eレシオ	0.57倍	0.75倍	0.18倍	0.73倍
ネットD/Eレシオ	0.14倍	0.34倍	0.20倍	0.31倍
株主資本比率	29.9%	30.3%	0.4%	29.5%
自己資本比率	27.2%	26.7%	0.5%	26.5%

(注)1. D/Eレシオは、有利子負債の期末残高÷自己資本により算出してあります。

2. ネットD/Eレシオは、(有利子負債の期末残高-現金及び現金同等物の期末残高)÷自己資本により算出してあります。

キャッシュ・フローの状況

当第3四半期(累計)の営業活動によるキャッシュ・フローは252億円のプラスとなりました。前年同期からは457億円の収入減となりました。震災影響やタイの洪水影響などにより税金等調整前四半期純利益が悪化し赤字となったことなどによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは1,328億円のマイナスとなりました。データセンター関連を中心に有形固定資産の取得による支出がありました。前年同期からは394億円の支出増となりました。前年同期において投資有価証券の売却による収入が339億円あったことなどによります。

営業活動及び投資活動によるキャッシュ・フローを合わせたフリー・キャッシュ・フローは1,075億円のマイナスと、前年同期からは852億円の収入減となりました。投資有価証券の売却による収入など特殊要因を除いたベースでは1,123億円のマイナスと、前年同期から512億円の収入減となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは758億円のプラスとなりました。転換社債1,000億円の満期償還に対し500億円の普通社債を発行したほか、運転資金の一部を短期借入金で調達しました。前年同期からは1,289億円の収入増となりました。

この結果、現金及び現金同等物の期末残高は3,199億円と、前年度末からは386億円減少しました。

